

これまでのご意見を踏まえた対応状況
【ワーケーションワーキンググループ】

令和3年3月10日
山梨県

これまでのご意見を踏まえた対応状況①

➤ 「まち」の施策

ご意見	施策の方向性	具体的事業
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議をするためのプライベートな空間をどう作るが課題 	ワークスペースの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・二拠点居住拠点整備推進事業費補助金（R2.9月補正予算） ・ワーケーションモデル事業費補助金（R2.9月補正予算）
<ul style="list-style-type: none"> ・車を持っていない人や免許を持っていない人の移動手段をどうするかということも考える必要がある ・鉄道の駅等から宿泊施設等に行くための二次交通が不十分であるのが課題 	二次交通の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・やまなし観光Ma a S整備事業費（R2.9月補正予算） ・リニア駅前エリア整備検討事業費（R3.当初予算）^新
<ul style="list-style-type: none"> ・同行する家族のことも考える必要があるのではないか ・リモートワークが広がる中で、民間企業において、リアルに集まること（オフサイトミーティング等）の価値が高まるのではないか ・滞在先を選ぶ際、その地域にディープに関われるかどうかという点に対する関心が高い ・滞在先に求めることとして、地元の方との交流機会を求める声が多い ・地域との交流を重視し、居住に近い滞在スタイルを求める動きが出る中で、観光地においても、そのニーズに応える必要がある 	多様な体験プログラム・アクティビティの造成	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション導入支援事業費（R2.9月補正予算） ・ワーケーション利用者等農作業体験メニュー開発支援事業費補助金（R3.当初予算）^新 ・屋外・自然で楽しむ家族向けアクティビティ開発支援事業費（R2.9月補正予算） ・森林セラピー基地づくり事業費（R2.9月補正予算）

➤ 「ひと」の施策

ご意見	施策の方向性	具体的事業
<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーションを実施する人が増加することが予想される中で、多様なスタイルのワーケーションを受け入れるということを、地域として考える必要がある 	地域で移住者等を温かく迎え入れる環境づくりの活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・移住コンシェルジュチーム活動促進事業費補助金（R3.当初予算） ・ふるさと山梨定住機構の機能拡充（R3）^新
<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーションの目的はそれぞれだが、この人に会いたいという「人」の要素が大きいのではないか ・地域のキーパーソン（意欲的な経営者や先輩移住者等）との出会いが求められている 	地域のコミュニティの核となる人材の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コア人材育成推進事業費（R3.当初予算）^新 ・ふるさと山梨定住機構の機能拡充（R3）^新
<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーションの取り組みは始まったばかりで、受け入れに対応する人材育成も重要 ・地域全体で受入に取り組む体制づくりができれば、効果的に推進できるのではないか ・個々の施設で取り組むのではなく、地域全体が一つの宿泊施設というコンセプトで推進することが効果的ではないか 	ワーケーション受入推進のための人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション導入支援事業費（R2.9月補正予算）

これまでのご意見を踏まえた対応状況②

➤ 「しかけ」の施策

ご意見	施策の方向性	具体的事業
<ul style="list-style-type: none"> ・県全体の相談窓口のようなものがあり、各地域の情報や、プログラムやアクティビティの情報が得られたりという形ができれば、導線として非常にわかりやすい 	各段階における情報の一元的な提供、充実したサポート・フォローアップの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・やまなし未来創造ポータルサイト（仮称）構築事業費（R2.9月補正予算） ・二拠点居住推進センターの設置
<ul style="list-style-type: none"> ・企業にとってのメリットが見える化できれば、ハードルが少しずつ下がってくるのではないかと ・まずは、すでにつながりのあるところ（姉妹都市、県内に工場等の拠点がある企業等）からアプローチするのが一番早いのではないかと 	積極的なプロモーションの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・二拠点居住プロモーション事業費（R3.当初予算）^⑨
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは企業に体験してもらうことが有効ではないかと 	効果的なマッチングのためのニーズの把握、イベントの開催等	<ul style="list-style-type: none"> ・二拠点居住企業誘致推進事業費（R2.9月補正予算） ・二拠点居住企業誘致マッチング事業費（R3.当初予算）^⑨
<ul style="list-style-type: none"> ・立地条件のよい山梨はワーケーションのお試しがしやすいという認識が形成できれば、企業としても山梨に来やすい。そのためには、交通費の補助等を提供することが必要 ・ワーケーション関連施設の運営者からも、交通費のコストの軽減が重要との意見がある ・企業にとってのネックとなっているのは、移動費、宿泊費といったコスト 	移動・滞在等に要する経費の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィス等お試し体験事業費補助金（R3.当初予算）^⑨
<ul style="list-style-type: none"> ・これからのキーワードは、「複業」。地域貢献や地域課題の解決に関心のある都市部の居住者が、地方とつながりをもち、面白い人たちが集まり、いろいろな新しいビジネスが生まれる可能性のある地域になれば、サテライトオフィスがさらに進出しやすくなる ・地域で複業を行う動きが今後広がる可能性があり、地域で生まれたアイデアを地域で実践するところまでサポートできれば面白い 	県内での起業や実証実験の実施に係る経費の支援等	<ul style="list-style-type: none"> ・やまなし創業チャレンジ応援事業費補助金（R2.11月補正予算） ・リニアやまなしビジョン実証実験サポート事業費（R3.当初予算）^⑨

➤ 本県の高付加価値化を図るための主な施策・事業

ご意見	施策の方向性	具体的事業
<ul style="list-style-type: none"> ・東京圏に隣接した立地環境等を活かし、「やさしい」をキーワードにブランディングすることが効果的ではないか ・ワーケーションに関する「山梨ブランド」を形成し、効果的に対外発信する必要がある 	ブランディングの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートブランド「やまなし」推進事業費（R3.当初予算）^新
<ul style="list-style-type: none"> ・特に発酵食について、山梨の風土でないと生まれないワイン、地酒、みそ等、その土地でしか味わえないものが非常に多いことは大きな強み ・北杜市には、豊富な水資源を活かした日本酒に代表される酒文化があり、誘客のフックとなるのではないか 	文化芸術の活用や美食ブランドの創造	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館等を中核とした文化クラスター推進事業費（R2.9月補正予算、R3.当初予算） ・やまなし美食ブランド創造事業費（R3.当初予算） ・文化資源活用モデル創出事業費（R3.当初予算）^新

➤ 今後検討する事業

- ・ ふるさと納税や様々な投資のモデルを組み合わせた本県との新たな関係の創出
- ・ オフサイトミーティングの誘致